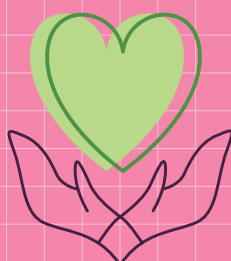


米山学友の群像 vol.4

Yoneyama Alumni in the World



「米山学友の群像 vol.4」発行に寄せて

このたび、世界で活躍する米山学友(元米山記念奨学生)の情報を生き生きとお伝えする広報誌「米山の群像」第4号を発刊する運びとなりました。

「米山学友の群像」は、2005年に第1号、2007年に第2号、2010年に第3号が発刊され、米山月間資料として、全ロータリークラブへ配布されました。私たちが心を込め、手塩にかけて支援してきた奨学生が、学友としてそれぞれの母国や日本、世界各地において活躍している様子が活写され、大きな感動を伝えてまいりました。

また、関係省庁や諸団体、各大学にも送付され、私たちロータリーの平和への活動の成果を広く地域社会へ伝える広報誌としても、大きな役割を果たしてまいりました。一例として、現在、私が代表理事を務める栃木県経済同友会の友人にお見せしたところ、「ロータリーがこれほど、アジアをはじめ世界との友好の基礎づくりに努力しているとは知らなかった。ぜひ友人にも伝えたい」と言われました。「経済人として、このような活動こそが、日本の将来を決めるものであると思う」と、断言しておられたのが印象的でした。

うれしいことに、2013年10月19日、ネパールに第5番目の海外学友会が誕生しました。台湾、韓国、中国、タイに次いでの結成です。各学友会の活動とともに本誌の中でご報告しておりますので、ぜひご覧ください。

どうぞ、アジアの平和を糸口に、世界平和の実現に貢献する彼らに惜しみない拍手をお送りいただければ幸いです。

2013年12月



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長 板橋 敏雄



C O N T E N T S

はじめに

「米山学友の群像 vol.4」発行に寄せて

1.ロータリー米山記念奨学事業とは	2
2.世界で活躍する米山学友	5
●YONEYAMA NEWS	14
●学友短信～Letters from Alumni in the World	20
3.米山学友会の活動	22
●国内学友会	22
●海外学友会	24
4.世話クラブ・カウンセラー制度があればこそ	26
5.データで見る米山学友	28

ホームカミング制度のご案内

ロータリー米山記念奨学会では、2008年度より「ホームカミング制度」を設けて、米山学友の里帰り訪問を推進しています。

「ホームカミング制度」を利用して、活躍する元米山奨学生を各ロータリー地区で毎年2人まで招待できます。地区大会などで現在の活躍を披露していただくことで、「寄付の成果が実感できる」と大変好評です。もちろん学友にとっても、日

本との絆、ロータリーとの絆を深めるまたとない機会となっています。

対象は、海外・国内在住いずれもOK！他地区出身の学友も招待できます。費用は、米山記念奨学会から補助されます（上限あり）。

「ホームカミング制度」の詳細については、米山記念奨学会ホームページをご覧ください。

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>



1 ローター米山記念奨学事業とは

民間最大の国際奨学事業です

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリークラブ会員の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学財団です。

1967年に財団法人として設立の許可を受け、2012年に公益財団法人に移行しました。これまでに世界121の国・地域出身の17,545人(2013年7月現在)におよぶ外国人留学生を支援し、今日では、事業規模と採用数において、民間で最大の国際奨学団体となっています。

【奨学金の種類と採用人数(2013学年度)】

ロータリー米山奨学金一覧	月 額		募集システム	人 数
1. 学部課程 (YU)	10万円	指定校推薦	大学・大学院対象の代表的なプログラム	695人
2. 修士課程 (YM)	14万円			
3. 博士課程 (YD)	14万円			
4. 地区奨励	7万円		短大・高専など。1人枠で2人採用可	10人
5. クラブ支援 (CY)	14万円		現役奨学生の期間延長制度(世話クラブ推薦・半額負担)	8人
6. 海外応募者対象	10万円 14万円		来日前の日本留学希望者が応募できる新制度。採用希望地区公募制。	8人
7. 海外学友会推薦	14万円		海外の学友会が募集・選考する研究者助成。公募制。	2人

上記は、2013学年度(4月1日～翌3月31日)の採用数です。

世界の平和を願って始まった奨学事業

ロータリー米山記念奨学事業の歴史は、50年以上前にさかのぼります。

敗戦後の復興が続く1952年、日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉氏の功績を記念して、東京ロータリークラブによって「米山基金」が設立されました。日本のロータリーが国際ロータリーに復帰して3年後、米山梅吉氏がそれを見ずして、奉仕に捧げた生涯を終えてから6年後のことです。米山梅吉氏が生前、東南アジアに深い関心をもっていたことから、ロータリー財団の国際奨学制度に模して、アジア諸国から奨学生を招致しようというのが基金設立の目的でした。そして、2年にわたる募金活動の後、1954年にタイから第1号奨学生となるソムチャード氏を招聘したのです。氏は、東京大学で養蚕学を研究し、帰国してからはタイの蚕糸局に入局、タイシルクの増産に貢献しました。

米山記念奨学金の創設の目的は、日本が再び戦争の過ちを繰り返さない誓いと、世界に“平和日本”の理解を促すことにありました。留学生が平和を求める日本人と出会い、互いに信頼し合う関係を築き、「世界の懸け橋」となることを願ってつくられたのです。



米山基金による
第1号奨学生
ソムチャード氏
(1954年)



奨学生懇親会(1958年)

「世話クラブ・カウンセラー制度」による 留学生の心のケアを重視しています

ロータリー米山奨学金制度の最大の特徴は、経済的な支援だけでなく、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて、奨学生の精神面のケアを図っていることです。

親善・交流を通じた国際理解を推進する米山奨学事業の要であり、ロータリークラブという地域密着の組織だからこその重要な特性といえるでしょう。

奨学生には、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれます。さらに世話クラブの会員の中から、専任のカウンセラーが1人付いて、奨学生の日常の相談に乗ったり、文化体験の案内役や交流の橋渡しに努めたりして、奨学生の日本での生活が心豊かなものになるよう

に配慮しています。大学の指導教員と連絡を取り合ったり、自宅に奨学生を招いて家族ぐるみで交流する例も多くあります。

奨学生には毎月1回世話クラブの例会に参加することが義務づけられており、奨学金もそこで手渡されます。そのほかにも、奨学生には、ロータリークラブの例会で母国のことや自分の研究について卓話(スピーチ)したり、クラブ・地区の社会奉仕活動、交流会や研修旅行に参加するなど、ロータリーの活動を通じて、日本文化や地域社会と触れ合うさまざまな機会が提供されます。

「世話クラブ・カウンセラー制度」は、国費や他の奨学金制度には無い魅力として、奨学生はもとより、他団体や大学、行政機関などからも注目されています。



米山カウンセラーとの交流



ロータリーの地区やクラブの行事に参加



奨学生によるスピーチ

米山梅吉さんって、どんな人？

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868－1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)、ウエスレアン大学(オハイオ州)、シラキウス大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生生活を送りました。

帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日というフィランソロピー(Philanthropy)の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、

ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて緑岡小学校(現在の青山学院初等部)を創立しました。

“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身をもって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

【もっと知りたい人のための参考図書】

米山梅吉の一生

著者：三戸岡道夫

発行：栄光出版社(2009年4月)

価格：1,500円(本体価格)



ロータリーとは

ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数34,558、会員総数1,220,115人(2013年6月30日国際ロータリー公式発表)に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

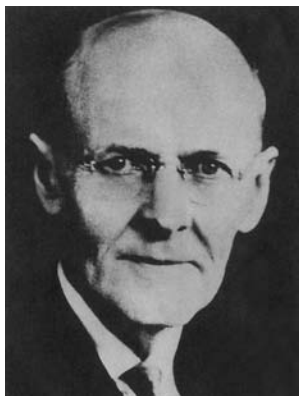
日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,280、会員数88,256人(2013年9月末現在)となっています。

出典:『ロータリーの友』(※)2013年12月号より

※『ロータリーの友』は、日本のロータリー会員向けに毎月発行されているロータリー地域雑誌です。



ロータリーの創始者ポール・ハリス
(1868-1947)



1935年、来日したポール・ハリス(前列左から3番目)を囲む米山梅吉(左隣)ら日本のロータリアン



日本のロータリーの父 米山梅吉
(1868-1946)

2 世界で活躍する米山学友

ロータリー米山記念奨学会では、これまでに1万7千人もの優秀な学友を世に送り出してきました。ロータリー精神に触れ、心を育んだ米山学友は、いま母国で、日本で、世界で活躍しています。

そのすべてをご紹介することはできませんが、ここでは、各国出身の代表的な学友の活躍をご紹介します。

Attention!

各学友の氏名の下に記載されているのは、
奨学年度／奨学期間中の所属大学／世話クラブ です。
国名は、出身の国・地域を指しています。

米山記念奨学会DVDシリーズ



ひろがれ!人づくりの輪 ロータリー米山記念奨学事業のいま

制作: 2012年12月
所要時間: 15分 ※短縮版(5分)もメニュー画面から選択可能
内容: ●事業の沿革
●奨学生と世話クラブのロータリアンとの交流
●学友の活躍、インタビュー
●学会会の紹介(タイ米山学会の設立)



心つないで、世界へ ロータリー米山記念奨学会の学友たち

制作: 2009年7月
所要時間: 15分
内容: 中国、台湾、モンゴル、ネパール、スーダン出身の、顕著な活躍を遂げる5人の学友を中心に紹介します。
(中国学会設立総会の様子も収録)

中国

China

カ リュウ
柯 隆 さん

富士通総研 経済研究所 主席研究員

1992-94/名古屋大学大学院/名古屋大須RC

中国マクロ経済研究の第一人者として知られ、経団連や経済同友会の会合での講演も多い。著書に『チャイナクライシスへの警鐘 2012年中国経済は減速する』『中国が普通の大国になる日』（いずれも日本実業出版社）など多数。広島経済大学経済学部特別客員教授、静岡県立大学グローバル地域センター特任教授兼務。



キ グン
姫 軍 さん

弁護士（世澤法律事務所パートナー）

1995-97/東京大学大学院/東京臨海RC

北京・上海で弁護士として活躍。2007年にはヤマハ発動機を原告とする商標権侵害訴訟で全面勝訴を勝ち取り、大きな話題となった。反日デモが多発した2012年秋には、日本企業と駐在日本人のためのホットラインを開設するなど、中国に進出する日本企業の活動を支援している。中国米山学友会の初代会長。



バン フィー
韓 霏 さん

天津医科大学 国際医学院 副院長

1996-98/名古屋大学大学院/豊田RC

1994年、関節軟骨の研究のため名古屋大学大学院に留学。学位取得後、米国のThomas Jefferson Universityに留学。遺伝子分野の研究に進み、膝関節軟骨の遺伝子を発見した。また、米国留学する後輩のための教育援助基金を創設。2008年帰国して現職。中国米山学友会の創立に携わり、現在、華北分会会長。



ヤン ジュン
楊 軍 さん

南開大学 生命科学学院 教授

1999-2001/東京工業大学大学院/横浜RC

1997年に来日し、研究生を経て米山奨学生時代に博士号を取得、国立医薬品食品衛生研究所（東京）で再生医療の分野で研究を続けた。2005年に帰国し、現職。学生の論文指導のほか、研究成果を生かして、天津市と中国政府によるバイオ人工肝臓に関する2つのプロジェクトを支える。



シャオ ニン
肖 寧 さん

中国疾病管理予防センター 国立寄生虫病研究所 教授・副部長

2005-06/旭川医科大学大学院/旭川RC

中国では「第2の肝臓がん」と恐れられる寄生虫病、エキノコックス症の解明のために旭川医科大学に留学。その間に新種のエキノコックスを発見し、学会に衝撃を与えた。2008年の四川省大地震では、被災地で感染症予防のための活動に尽力し、中国政府より表彰された。



韓国

Korea

チェ サン ヨン

崔 相龍 さん

元駐日韓国大使 高麗大学 政治外交科 名誉教授

1969-1972/東京大学大学院/東京日本橋RC・東京城西RC

1998年に交わされた「日韓共同宣言」には、諮問委員として宣言文書の作成に参画。また、日本文化の韓国市場への開放に関して、金大統領（当時）と内閣を説得、日韓交流が飛躍的に拡大する歴史的な土台を築いた。2000-02年第14代駐日韓国大使、2005年「日韓友情年」の韓国側諮問委員長を務めた。



キム ボクハン

金 福漢 さん

NPO法人織の音アート・福祉協会 副理事長

1995-97/埼玉大学大学院/大宮北RC

自身も左足にポリオによる麻痺を抱えながら、障害児教育を専攻するために、埼玉大学大学院修士課程に留学。2004年、「障害者が通える町にしよう」との志を同じくする仲間とともに、心身障害者地域デイケア施設「織の音工房」を開設。生活介護や就労継続支援、ケアホームの運営、特別支援学校の生徒の職場体験などを行っている。



朴 裕河 さん

世宗大学 日本文学科 教授

1987-88/早稲田大学大学院/浦和北RC

東アジアの歴史和解を目指し、数々の著書を日韓両国で出版。著書『反日ナショナリズムを超えて』で第5回日韓文化交流基金賞を受賞。2007年には、『和解のために』で第7回大佛次郎論壇賞を受賞した。2013年、慰安婦問題を扱った『帝国の慰安婦—植民地支配と記憶の闘い』を韓国で出版した。



クワン チョルヒョン

權 哲賢 さん

元駐日韓国大使 世宗財団理事長

1984-87/筑波大学大学院/佐野東RC

日本留学から帰国後、東亜大学教授などを務め、釜山市で3回連続、国会議員に当選。2008年、第18代駐日大韓民国特命全權大使に着任。3年に及ぶ在任期間の間、さまざまな分野における日韓交流を促進することに尽力した。退任後、2011年からは韓国の民間シンクタンク、世宗財団の理事長を務めている。



イ キョンヨブ

李 炅燁 さん

PENTAGON 代表取締役

1996-97/金沢大学大学院/金沢RC

小学生から剣道に親しみ、日本留学から帰国後、剣道を通じて日韓交流を進めたいと、剣道具専門メーカー「剣道名家」を起業。日本と韓国を中心にインターネット販売を行い、顧客には全日本剣道選手権優勝者も抱える。そのほか、経営コンサルティングと剣道専門誌のコラムニストも務める。



台湾

Taiwan

リョウ イツキウ

廖 一久 さん

国立台湾海洋大学および国立屏東科技大学 主任教授

1965-68/東京大学大学院/田原RC

台湾省水産試験所(当時)の研究員時代、世界に先駆けてブラックタイガー(エビ)の養殖を成功させ、ボラおよびサバヒ一等の人工繁殖世界記録を打ち立てた。2009年、台湾で最も権威ある科学賞、第5回總統科学賞を受賞。2012年には世界水産養殖同盟による終身功績賞を受賞した。



ジョ ジュウニン

徐 重仁 さん

(財)商業発展研究院 会長

1976-77/早稲田大学大学院/平塚RC

台湾セブンイレブン、スターバックスなどを展開する台湾最大の流通・小売企業「統一超商」の社長として、34年にわたり事業を牽引。日本をはじめ海外企業と提携し、セブンイレブンをはじめ、数々の事業を台湾に定着させた。2010年「国家傑出経営者賞」で最優秀賞受賞。2012年より現職。台北東海RC創立会長。



ライ ミンチュ

賴 明珠 さん

翻訳家

1977-78/千葉大学大学院/松戸RC

中国語圏を代表する村上春樹作品の翻訳家。今や海外でもファンの多い村上春樹氏の作品を、世界で最初に翻訳し、台湾に紹介。以来26年間、台湾で翻訳された村上作品45冊のうち35冊を手掛けるという圧倒的な翻訳数を誇る。長編小説『ノルウェイの森』上下巻の翻訳版出版で、1989年の台湾に村上春樹旋風を巻き起こした。



リン マンレイ

林 曼麗 さん

元国立故宮博物院 院長 国立台北教育大学 芸術学系 教授

1981-83/東京大学大学院/東京保谷RC

帰国後、台北市立美術館館長などを経て、2006年1月、女性として初めて、閣僚級とされる国立故宮博物院的院長に就任。同博物院的の固定観念をくつがえすような斬新な改革を行った。退任後は、大学教授として教鞭を執る傍ら、大学付属美術館の活動や日本での講演など、精力的に活動している。



リ カシン

李 嘉進 さん

亜東関係協会 会長

1989-90/筑波大学大学院/那珂湊RC

日本留学から帰国後、台湾の經濟部人事処専員を経て国家安全會議諮問委員を務め、2013年5月、台湾の対日窓口機関であり、台北駐日経済文化代表処の台北本部である「亜東関係協会」の会長に、歴代最年少で就任。就任後の初来日では、日本の主要閣僚と面会するなど、日本との交流進展に期待が寄せられている。



ベトナム

Vietnam

タイ・ヴァン・ナム さん

ホーチミン市工業大学 バイオ食品工学・環境学部 副学部長

2007-11／大阪大学大学院／千里RC

2007年から3年間試行された「現地採用ロータリー米山記念奨学金」の第1期生として選ばれ、来日。大阪大学大学院博士課程に入学し、「エコラベル」について研究。研究成果は将来のベトナムの環境基準として貢献が期待される。11年3月、工学博士号を取得。同年4月からホーチミン市工業大学で教鞭を執る。



フイン・ムイ さん

タンロン技術学院 院長

1973-74／東京大学大学院／東京荏原（現・東京品川中央）RC

東京大学で理学博士号を取得した数学者。1988年、ベトナム初の私立大学となるタンロン大学を首都ハノイに設立し、学長に就任。現在は、タンロン技術学院の院長として、ベトナム人学生への日本語教育やIT技術教育を通じて人材育成に努めるほか、日本企業とのビジネスを展開して両国のビジネス交流に幅広く貢献している。



チャン・ミン・フエ さん

香港上海銀行（ベトナム）コーポレート・バンキング・マネージャー

2008-10／神戸大学大学院／神戸東RC

現地採用ロータリー米山記念奨学金の第2期生として来日。神戸大学大学院では、国際経済を専攻し、修士号取得後、帰国。ベトナムの大手証券会社勤務を経て、2012年夏より現職。キャリアアップ転職を実現し、経済発展著しいベトナムに投資する外資系企業を顧客に、法人営業を担当している。



ディン・ゴック・ハイ さん

(株)アジア・ニューパワー 代表取締役

2001-02／埼玉大学大学院／浦和中RC

日本企業勤務を経て、2006年に東京で起業。太陽電池の輸出入と株・不動産などベトナム投資の情報提供、日本企業とベトナム企業のマッチング、M&Aなどを行う。2013年の日越友好40周年を記念し、在日ベトナム経営者協会を設立、初代会長に就任した。東京友愛RC創立会員。



チャン・ホアン・ナム さん

ベトナム保健省 母子保健局 専門官

2010／徳島大学大学院／徳島中央RC

徳島大学疾患酵素学研究中心にて博士号取得後、帰国し、現職に復帰。国が抱えるさまざまな母子保健問題についての指針や基準を作成し、国内の母子保健サービスやプログラムを監視する仕事を担当。JICAがベトナム保健省と協同で行っている「母子健康手帳全国展開プロジェクト」にも参加。



タイ

Thailand

ナレス・ペチニン さん

タイ王国 海軍士官学校 教育部 准教授

1994-96/武蔵工業大学(現・東京都市大学) 大学院/越谷RC

1984年、タイ・日本の政府間協力により来日、防衛大学校に入学。その後、武蔵野工業大学博士課程に進学。帰国後着任した士官学校では、教育課程の開発や組織運営の高度化などの業務を担当した。タイ王国海軍大佐・施設本部長職兼務。タイ米山学友会の創立副会長。



ウイット・クラワッタナクル さん

Sania (Thailand) Co., Ltd. マネージング・ディレクター

1987-88/早稲田大学大学院/東京浅草RC

日本留学から帰国後、バンコクに進出する日系企業の総務マネージャーなどを経て、2011年より現職。多忙な仕事の傍ら、タイに帰国した米山学友を招集して、2012年にタイ米山学友会を立ち上げた。創立会長として、学友会メンバーの親睦を深め、活動の活性化に尽力している。



ブサコーン・ホンヨック さん

Panasonic Siew Sales Co., Ltd. 代表取締役社長秘書部長

1997-98/島根大学/出雲中央RC

タイパナソニック販売会社の社長秘書として勤め、高度な日本語力を生かし、会議通訳、日本人出向者の対応にもあたっている。植林や学校支援など、同社が進める社会貢献活動にも社長の補佐として積極的に参加。タイ米山学友会の初代幹事。



アヌチャー・ボリブーン さん

Kao Commercial (Thailand) Co., Ltd. 情報技術部長

1993-95/豊橋技術科学大学大学院/豊橋北RC

豊橋技術科学大学大学院では、知識情報工学を専攻。卒業後は帰国して、在学中に内定を得ていたKao Thailandに就職。日本の花王本社と協同で行う数々の情報技術プロジェクトに関わった。タイ米山学友会の立ち上げに尽力。タイ米山学友会の広報担当役員を務める。



ニパラット・スリタレット さん

国立タマサート大学 科学技術学部 副部長、学生担当

2000-02/東京農業大学大学院/茅ヶ崎なぎさRC

東京農業大学大学院博士課程在学中に2年間米山奨学生となり、博士号を取得して帰国。タマサート大学科学技術学部で教鞭を執りながら、毎年、学生を引率して母校の東京農業大学を訪問し、日本の学生と交流活動を行っている。タイ米山学友会の創立副会長。



ネパール

Nepal

アルチャナ・シュレスタ・ジョシ さん

ルーザー・トレーニングセンター代表

2001-02/鈴鹿国際大学/鈴鹿西RC

2003年にネパールの貧困女性の自立支援のための職業訓練施設を設立。10年間で延べ1200人以上が、ミシン縫製、刺繍、美容・理容などの技能を習得し、起業・就職などを果たしている。2006年、ネパールのラリトプールRC入会。学校法人化を目指し、2012年より、岡山県立大学博士課程に再留学中。



ギリ・ラム さん

(株)三井物産戦略研究所 新事業開発部所属 研究員

1998-2000/室蘭工業大学大学院/室蘭RC

苦学の末に、日本のODAプロジェクトを経て日本留学を実現。在学中から教育基金を設立して、母国の子ども達を奨学支援している。東京米山友愛RC創立会員。在日ネパール人協会副会長。東日本大震災発生後はたびたび被災地に赴き、炊き出し等の支援活動を行っている。



ソバナ・バジュラチャリヤ さん

在ネパール日本国大使館 政務班 ポリティカルアドバイザー

2003-05/金沢大学大学院/金沢百万石RC

ネパールにおける平和構築の実現に向けて活躍中。日本大使館アドバイザーとして、日本の外務省向けのニュースの編集や事実関係の調査、記者・政治家との会談、訪問団のコーディネーターや通訳など幅広い職務を担う。ネパール国立トリブバン大学の紛争・平和・開発学科講師を兼務。



ラム・チャンドラ・ブサル さん

JICA研修生同窓会(JAAN) 事務局長
Vegetable Seed Project (スイス政府支援) 専門アドバイザー

1999-2000/愛媛大学大学院/北条RC

JICA農業研修員として来日したことをきっかけに、柑橘類栽培の研究のため、愛媛大学大学院に留学。博士号取得後、帰国し、ネパール農業省や国際NGOの支援プログラムにおいて、一貫して農業支援プログラムのコーディネーターとして活躍している。



ジギャン・クマル・タパ さん

ネパール政府公式通訳者
(公財) かながわ国際交流財団勤務

2008-09/横浜国立大学大学院/横浜たまRC

大学での研究を続けながら、法整備などネパールの国づくりに関わる。日本のTVにも多数出演。駐日ネパール大使館通訳、NHK国際ニュース翻訳ほか兼務。2012年1月、ネパール観光協会より、日本におけるネパールの認知度・イメージ向上に寄与した功績を称えBhaskar Award受賞。



その他の
国々

Other Countries

ボロルトヤ・エンフボルド さん

在モンゴル日本国大使館 広報文化班勤務

モンゴル 2010-12 / 山形大学 / 米沢RC

モンゴルの日本大使館で、国費留学試験の実施のほか、日本留学フェアの開催や、日本文化を紹介するイベントの実施など、日本留学の経験を生かしてさまざまな業務を担当。米山学友のジャンチブ・ガルバドラッハさんが設立した新モンゴル高校の卒業生でもある。



ヤスニセダルナワティ さん

Bogor農業大学 食料科学工学科 講師

インドネシア 1990-93 / 九州大学大学院 / 久留米RC

食品工学博士として薬用植物（ハーブ）とスパイスの機能を分析、食用・薬用の利用・応用に貢献する開発研究を続け、その研究功績に対して国からの表彰多数。スパイスの抽出・加工に関わる発見の大半は、特許として認可され、大学や企業で利用されている。インドネシア企業管理機構上級研究者としても活躍。



ウオン ライヨン
黄 麗容 さん

First Penguin 創業者および代表

マレーシア 2001-04 / 横浜国立大学大学院 / 横浜泉RC

亡きカウンセラーとの約束の実現のため、発展途上国が抱えるさまざまな問題について考え、支援の手を増やすための人材育成を行うFirst Penguinを設立。マレーシアを拠点に、母国や日本の若者に向けて、貧困地域に何ができるかを考えてもらう研修を行っている。



ナイ・チュムニット さん

日本地雷処理を支援する会（JMAS）CBS所属 通訳兼・土木工事課程助教

カンボジア 2008-09 / 福井大学 / 福井北RC

日本地雷処理を支援する会（JMAS）のスタッフとして、カンボジア国内の「国家平和維持・地雷処理爆発生残存物除去センター」に設置された訓練センターに勤務。日本の陸上自衛隊による支援事業が実施されており、その講義の通訳、資料の翻訳を務めている。



チャンタソン・インタヴォン さん

特定非営利活動法人「ラオスのこども」共同代表

ラオス 1983-86 / 東京都立大学大学院 / 東京銀座RC

ラオスで絵本や児童書の出版、学校図書室の設立、子どもが遊び学べる場の運営支援などに取り組んでいる。このほか、親の経済力をつけるために伝統的な織物の技術を教える「ホアイホン職業訓練センター」を設立。母国の子どもたちの教育を多面的に支援している。



MD・アノア・フサイン・ミアン さん

ダッカ大学付属シティ・デンタル・カレッジ 准教授

バングラデシュ 2006-08 / 東京医科歯科大学大学院 / 東京王子RC

未来の歯科医師養成に励む傍ら、医療ボランティア活動にも精力的に取り組み、地方に向いて貧しい人々に医科や歯科の無料診療を行う医療キャンプを開催。延べ7,000人以上が無料で診療や投薬を受けた。





タン・シン・ナイン さん

Japanese English Training Centre 校長

ミャンマー 2003-05 / 電気通信大学大学院 / 東京調布RC

2008年ミャンマーに帰国し、JETC語学学校を設立。2011年から携帯電話販売事業に参入。また、新たに不動産サービス・資産運用事業も立ち上げた。ミャンマー元日本留学生会の執行役員、日本の大手シンクタンクのミャンマー事業環境に関するアドバイザーも務める。東京米山ロータリークラブ創立会員。



スチュアート・マクブヤ・センパラ さん

Consciousness Uganda Foundation, Inc. プロジェクトコーディネーター

ウガンダ 2001-02 / アジア学院 / 鹿沼RC

母国で赤十字の活動にかかわり、1986年、内戦やエイズで親を失った子どもを支援するNGO・ウガンダ意識向上財団(CUFI)を設立。ウガンダ国内の学校で学校給食提供、養鶏技術指導のほか、紛争・エイズによる孤児支援、環境保護のための植林活動を行っている。



A.W.K.プリヤンカ・ペレラ さん

Kindai Kagaku Lanka (Pvt) Ltd. 社長

スリランカ 1993-95 / 東海大学 / 小田原城北RC

卒業後、日本の化粧品メーカーのスリランカ製造工場に入社。今では12の工場を持つ現地法人の社長として、数千人の従業員と家族の生活を支えている。2004年の津波被害を機に、世話クラブが設立した「アラリヤ奨学金財団」の現地責任者を務め、毎年40〜50人の子どもの奨学支援を行っている。



エマニュエル・ボナヴィタ さん

翻訳家

フランス 2008-09 / 法政大学大学院 / 東京江戸川RC

卒業後、東映アニメーションのパリ支社勤務を経て、フリーランスの翻訳家に。東日本大震災の発生後、被災地に赴いてボランティア活動を行ったほか、ルポルタージュ『遺体―震災、津波の果てに』(石井光太著)の仏訳共同翻訳に携わり、その売上金を被災地の基金に全額寄付した。現在は、インドのデリー在住。



ルチ・ネタニ さん

インド・NTSS社長 日本語同時通訳

インド 1993-95 / 熊本大学大学院 / 熊本RC

高度な日本語力だけでなく、日本の商習慣や社会通念まで深く理解し、緊密化する日本とインドのビジネスをつなぐ懸け橋として、両国の大臣、自治体の首長、企業の代表など、VIPクラスの通訳、国際会議通訳を多数務める。インドのソフトウェア開発会社NTSS社長でもある。



ノアイン・アマリア・ギンゾ さん

ベネズエラ中央大学 都市計画研究所 教授 建築家

ベネズエラ 1998-99年 / 千葉大学大学院 / 千葉港RC

日本留学から帰国後、母校であるベネズエラの最高学府、ベネズエラ中央大学建築学部の教員となる。建築家としても、在ベネズエラ・ノルウェー大使公邸の設計・改築を手がけるなど、活躍。



表彰おめでとうございます！

平成25年度外務大臣表彰 受賞 ～日本とモンゴルとの相互理解の促進に貢献～

ジャンチブ・ガルバドラッハ さん

(モンゴル／1998-99／山形大学大学院／山形北RC)

モンゴルの米山学友、ジャンチブ・ガルバドラッハさんが、日本とモンゴルとの相互理解の促進に貢献した功績により、平成25年度外務大臣表彰を受賞されました。ジャンチブさんは、日本の教育モデルを参考に、モンゴル初の3年制高校「新モンゴル高等学校」を2000年に開校。その設立には、世話クラブの山形北RCの会員を中心に、山形・宮城の多くの市民が支援しました。同校は、今やモンゴル屈指の進学校として高い評価を得て、日本をはじめ世界各国へ大勢の留学生を送り出しています。2014年には、モンゴル工科大学を開学予定。ジャンチブさんは、モンゴルの教育改革に取り組んでいます。



2013年3月、新モンゴル高校を訪問した安倍首相夫人を出迎えるジャンチブさん（左）

ジャンチブさんより喜びのコメント

私は日本とモンゴルが今後もっと仲良くしていけると信じています。そのために大きな役割を果たすのが両国の若者たちです。多くのロータリアンからご支援を頂いたおかげで、わが高校ができました。ここから250人以上の卒業生が日本に留学し、また、多くの日本人学生が実習に来て、モンゴルを好きになって帰国しています。今回の表彰も、このような両国間に生きた橋を懸ける交流を高く評価してくださった証しと、大変うれしく思います。



Paul Harris Fellow 受賞 ～パレスチナ初のロータリークラブ設立に貢献～

ジェフリー・ベア さん

(アメリカ／1993-94／東京大学大学院／東京東村山RC)

2010年5月、パレスチナ自治政府下では初のロータリークラブ（ラマラRC）の創立の陰に、米山学友のジェフリー・ベアさんの活躍がありました。計画当初から中心的な役割を果たした功績により、ベアさんには、当時のジョン・ケニー国際ロータリー会長から直接、ポール・ハリス・フェローの称号が授けられました。ベアさんは、パレスチナに関わるNGOの理事を務めるとともに、IT企業を経営するなど、多方面で活躍しています。



ジョン・ケニー国際ロータリー会長（当時）から表彰されるベアさん（右）

ベアさんより喜びのコメント

日本に留学していたとき、私は幸運にも日本のロータリーから奨学金をいただき、そのおかげで学業を修め、願った仕事に就くことができました。パレスチナの若者にも同じ機会を与えたい。その思いが私を駆り立ててきました。ラマラにロータリークラブができた今、パレスチナの若者たちがロータリーの支援で、日本など外国で学ぶ機会を得て、やがて大陸をつなぐ懸け橋となり、社会をつくる人材となってくれることを期待しています。

(2010年5月、ラマラRCの加盟認証状伝達式でのスピーチより)



楽しく読めて、元気が出る！ 学友の本をご紹介します

『わが盲想』

モハメド・オマル・アブディン 著

〔スーダン／2005-08／東京外国語大学／東京国立白うめRC〕

幼少時からの進行性の病のため、12歳で視力を失ったモハメド・オマル・アブディンさんは、19歳の時に来日。福井県立盲学校で点字や鍼灸を学びました。その後、母国スーダンの紛争問題と平和について学びたいとの思いから東京外国語大学に入学。大学3年生の時に米山奨学生となり、ロータリアンの活動にも影響を受け、母国の視覚障害者の環境改善を支援する特定非営利活動法人「スーダン障害者教育支援の会」を設立しました。2008年には日本青年会議所主催「人間力大賞2008」（地球市民財団奨励賞）を受賞。

2012年6月から、ポプラ社WEBマガジン・ポプラビーチでエッセイの連載を開始。それをまとめた著書『わが盲想』は、ユーモアたっぷりに日本での異文化体験を綴った手記で、新聞や雑誌の書評欄でも紹介されるなど、その面白さは折り紙付きです。



「米山学友ホームカミング」で招かれ、第2780地区（神奈川県）地区大会でスピーチするアブディンさん



発行：ポプラ社（2013年5月）
定価：本体1,400円

内容

（「BOOK」データベースより）

ひよんなことから19歳で来日。言葉も文化も初めて尽くしのなか、さまざまなピンチに見舞われながらも、日本語、点字、鍼灸の専門用語、オヤジギャグを使いこなすまでになった著者。パソコンの音声読み上げソフトを駆使して自ら綴った、爆笑、ときどきホロリの異文化体験手記。

『なぜか好かれる「ココロ美人」になる5つの幸せオーラ』

林志英 著

〔中国（現在は日本国籍取得）／1990-91／大分大学大学院／大分1985RC〕

米山学友の林志英さんは、フォーマル子供服のインターネット販売では草分け的な存在である株式会社KAJINの代表取締役、そして、東京米山友愛ロータリークラブの会員でもあります。23歳で日本の大分大学大学院に留学。米山奨学生として、ロータリーとの親交を結びました。卒業後は上京し、日本企業での勤務を経て、2001年「フォーマル子供服専門店KAJIN」を創業。2人の子どもを育てるワーキングマザーでもあります。2009年、全国商工会議所女性会連合会が主催する、優れた女性経営者に贈られる「女性起業家大賞奨励賞」を、2010年には、EC研究会主催日本オンラインショッピング大賞奨励賞を受賞。

この本では、起業家として成功を収めた林さんが、その秘訣をまとめ、女性の生き方をアドバイスしています。啓発本でありながら、これまでの林さんの人生を垣間見られるエッセイとしての面白さもあります。ロータリー米山記念奨学金への感謝も書かれています。



2013年7月、林さん（中央）は米山記念奨学会事務局を訪ねて、本を寄贈してくださいました。



発行：学研パブリッシング
（2013年6月）
定価：本体1,300円

内容

（「BOOK」データベースより）

背も小さいし、モデルのようにスレンダーでもない。髪の毛の長さも中途半端でボサボサ。メガネもかけているし、顔もきれいというわけじゃない…。わずか6,000円の現金と、スーツケース一つを手に、単身中国から日本にやってきたそんな23歳の女性は、二十年後、大きな「ジャパニーズ・ドリーム」を叶えた。そこには、まわりの人に「この人を応援したい、協力してあげたい」と思わせるオーラがあった。誰だってそんな「ココロ美人」になれる5つのたしなみ。

よねやま親善大使が誕生！

ロータリー米山記念奨学会では2012年、事業創設60周年を記念して、日本国内で活躍する優秀な米山学友を表彰する「優秀米山学友賞」を創設。80人を超える応募の中から、2人の受賞者が決まりました。

お二人には2015年6月までの2年間、初の「よねやま親善大使」として、ロータリー内外で米山記念奨学事業のPRにご協力いただきます。米山関係のセミナーや行事、クラブの卓話などに、ぜひお呼びください。

中国 ヤン シャオピン 楊 小平 さん

(2011-12／広島大学大学院／東広島21RC)

広島大学大学院 国際協力研究科 客員研究員。
外国人初の広島平和記念資料館ピースボランティアとして活動中。また、中国への平和スタディツアーを企画・実施。日中の戦争の歴史をたどり、日本人と現地市民との交流会を行うなど、両国の理解と友好のために尽力している。

楊さんから一言

多くの皆さんからのご支援のおかげで、研究者としての一步を踏み出すことができました。よねやま親善大使にも選ばれ、大変光栄です。これからは「四つのテスト」を人生の指針として守り、活動していくことを誓います。



台湾 コウ ミンホアン 尤 銘煌 さん

(2003-04／愛知学院大学大学院／津島RC)

山形大学 基盤教育院 准教授。
山形大学で学ぶ外国人留学生を受け持ち、約10年間、日本語・日本文化を教え、国際社会で活躍する人材を育成している。また、第2800地区（山形県）米山学友会会長として、市民との交流を図る「多文化交流コンサート」を毎年開催している。

尤さんから一言

初めのよねやま親善大使に選ばれて大変光栄です。これまでの活動を山形県外にも広げて、多くのロータリークラブや企業、市民の皆さんに、国際理解と世界平和の重要性を理解してもらえるよう努力していきたいと思ひます。



2013年5月に広島で開催された国際ロータリー平和フォーラムでも、親善大使は大活躍！流ちょうな英語で、海外から来たロータリアンに米山記念奨学事業の魅力を伝えてくれました。



尤さんは山形大学の留学生にさまざまな日本文化を教えています。



楊さんは2008年から広島平和記念資料館のピースボランティアを続けています。



そのほか、ロータリーのさまざまなイベントで、米山学友の代表として事業PRに努めています。



お二人とも、米山記念奨学会が博士号を取得した奨学生・学友に贈るお祝いの腕時計を愛用してくれています。

学友からの寄付が2千万円を超えました！

米山記念奨学事業は、ロータリアン(ロータリークラブ会員)の寄付によって支えられていますが、次の時代の留学生のためにと、学友からの寄付も増加しています。2013年10月には、米山学友からの寄付金の総額が2,000万円を超えました。
※東日本大震災の義援金として集まった約760万円を除きます

ロータリー米山記念奨学会へのご寄付には、表彰制度があります。
個人特別寄付の累計が10万円に達すると、感謝状と共に、第1回米山功労者の称号が贈られます。
以降、累計20万～90万円は「米山功労者マルチプル」、累計100万円に達すると、「米山功労者メジャードナー」と称号が変わります。

2013年、寄付をしてくださった主な学友

キヨノ ノブナカ
清野 允中 さん

〔台湾(現在は日本国籍取得)／1990-92／名古屋工業大学大学院／江南RC〕

2009年、赴任先のシンガポールから、「第2590地区(神奈川県)で毎月1万円ずつ寄付をしていた米山学友を見習って、米山への寄付を始めたい」と連絡をくださった清野さん。その言葉通り、それからほぼ毎月、1万円の寄付を欠かさず続けてくださっています。寄付に込めた思いとして、後輩の米山奨学生たちに向けて「夢を諦めず、自分を信じて突き進んでほしい」とのメッセージを寄せてくれました。

2013年11月現在、第4回米山功労者マルチプル(累計43万円)。



キ グン
姫 軍 さん

〔中国／1995-97／東京大学大学院／東京臨海RC〕

中国・北京在住。姫軍さんが最初に奨学会に寄付してくれたのは2007年のこと。「在学中に米山奨学金に大変お世話になった恩に報いたい。それとともに、私がいただいた恩を次の世代に伝えたい。米山奨学会に寄付することで、この2つの目的を同時に達成できると考えました。できれば、これから毎年50万円ずつ寄付したいと思います」との言葉通り、中国から50万円を毎年送金してくださっています。

2013年のご寄付で累計は360万円を超えました。第36回米山功労者メジャードナー(累計369万8,000円)。



チョウ イュウアン
張 虞安 さん

〔中国／1998-2000／近畿大学大学院／交野RC〕

アメリカ・ボストン在住。2007年から毎年1,000～1,800ドルを世話クラブ経由でアメリカから送金してくださっています。

2回目のご寄付には、次のような素敵なメッセージを寄せてくれました。「渡米して8年、知らず知らず、人間のありきたりな欲求に従って働いていました。手に入れた幸せはつかの間で、いつも不安や悲しみに襲われてきました。しかし今、私は充実感と幸せを感じています。それは、周囲のすべての人に対し、奉仕の気持ちを意識することで得られています。『Service above Self(超我の奉仕)』、これは私にとって単なる言葉ではなく、精神そのものであり、幸せの源泉です」

2013年10月には、385,500円を送金いただきました。第9回米山功労者マルチプル(累計99万7,759円)。



そのほかの学友や学友会からも温かい言葉とご寄付をいただきました。ご支援ありがとうございました。

日本語・日本文化を教える学友たち ～次世代の人材育成と

マレーシア



Mikasano Academic Centre 社長

テン キーウイ

鄧 棋緯 さん

(2003-05/神奈川大学大学院/横浜戸塚中央RC)

2006年、故郷のパナン島で「三笠野日本語&留学センター」を設立。初級から上級までの日本語クラス、短期間で高レベルの日本語が習得できる留学準備コースなどを備え、今や年間 200人以上の学生、社会人などが、ここで学んでいます。学校名の“三笠”は日露戦争でロシア海軍を破った戦艦名にちなんだもので、「時代は欧米よりも日本、との信念を込めた」と言います。ほかにも日本の高校生との交流会を開いたり、留学説明会を開催するなど、草の根の交流、そして日本留学を積極的に推進しています。



2013年4月には17人の生徒を日本留学に送り出した

鄧さんより一言

米山奨学生の選考面接の時に、日本とマレーシアの懸け橋になりたいと述べました。エンジニアの仕事をしている時も、二つの国にどのように貢献するか、母国に何ができるかと常に考えていました。そこで、語学センターを設立しました。そして言葉だけでなく、本当に日本を知り、日本と交流するために留学センターをつくりました。いつか習慣の違いを乗り越えて交流できるような交換留学ができれば、もっと素晴らしいと考えています。



Eden Technical Trilingual Kindergarten and School 校長

エドナ・スヤパ・メヒア・ガルダメス さん

(2006-07/広島大学大学院/東広島RC)

2010年2月、ホンジュラス第2の都市、サンペドロスーラ市内に Eden Technical Trilingual Kindergarten and School を開校。聖書に基づく基督教教育と科学的な興味を育てる理数科教育、そして日本語と英語、スペイン語を学ぶ3か国語教育を行っています。特に、日本語を学べる幼稚園や小学校は、サンペドロスーラ市ではほかになく、「無限の可能性をもった子どもたちに科学への道と世界への扉を開く」というビジョンをもった質の高い教育は保護者からも高く評価され、毎年、入学者数は着実に増加しています。



ホンジュラスでは珍しい子ども達への日本語教育

エドナさんより一言

私の心の中には、いつも“日本”があります。子どもたちが日本の素晴らしい文化と秩序を学び、実践すれば、きっと私たちの国を発展させることができるはずです。10年後には、今とは違ったホンジュラスになると信じて、子どもたちと新しい未来をつくっていきたいと思います。

日本との文化交流促進に大きく貢献している学友たちをご紹介します～

リトアニア



Druskininkai Atgimimas School 教員

ロヴェナ・カヴァラシエジュテ さん

(2009-11／信州大学大学院／須坂RC)

卒業後、2011年4月に帰国して、留学前に勤めていた学校に復職したロヴェナさんは、日本で経験したことをリトアニアの人々、特に生徒たちと分かち合いたいと、学校にジャパンプラブ「Sakura Blossom in Druskininkai (ドゥルスキンカイの桜の花)」を設立しました。ドゥルスキンカイは街の名で、日本とリトアニアの結びつきを深め、この街で少しでも日本文化に親みたいとの願いを込めました。現在、11～15歳の生徒約30人が、書道や剣道、着付け、生け花などを体験しています。



ロヴェナさんのクラブで日本の伝統文化に親しむ生徒。
生け花や着付けを体験

ロヴェナさんより一言

日本文化の体験に熱心に取り組む生徒たちの様子から、単に新しいことに挑戦する楽しさだけでなく、ヨーロッパの文化とは異なる日本独特の自然観や美意識、他者との調和を重んじる精神などを感じ取っていることがわかります。生徒たちにはもっと多くの異文化に触れて、自国の文化との共通点や違いを発見してほしいと願っています

スリランカ



Beppu Japanese Language School 校長

スチッタ・グナセカラ さん

(2010-11／別府大学大学院／別府RC)

事前に日本語を学ぶことなく留学したスチッタ・グナセカラさんは、日本語の習得に苦労し夢をあきらめて帰国する友人たちを見送りながら、スリランカに日本語学校をつくろうと決意します。自ら貯めたお金などを元手に開校したのは、愛する別府の名を冠した「別府日本語学校」(Beppu Japanese Language School)。この学校では日本語の習得だけでなく、留学後すぐに生活ができるよう、箸の使い方や風呂の入り方など、日本の文化を教えており、留学コースを修了した学生は全員、日本への留学を果たしています。



別府日本語学校の教室にて

スチッタさんより一言

スリランカは2009年に長い内戦が終わりました。私は国民の一人として、母国のさらなる発展のために力を尽くしたいと思っています。スリランカでは今、中国語の学習者が増えています。日本語もまだまだ人気です。日本語教育を通じ、日本とスリランカとの関係を強くしていくための「力」となる国際人を育てたい。そして「別府日本語学校」をスリランカで一番の日本語学校にしたい。いつか、私の学校の卒業生が米山奨学生に採用されたら、どんなにうれしいことでしょう。



ロータリー米山記念奨学会では、誕生日を迎える米山奨学生・学友の皆さんに、お祝いのEメールをお送りしています。世界中から届く返信には、皆さんの近況報告と感謝の気持ちがつつられています。その一部をご紹介します。

台湾より

チン コウリツ

陳 宏立 さん (台湾/1994-96/京都大学大学院/神戸西神RC)

台北大稲埕RCの2013-14年度会長を務めています。先日、世話クラブの神戸西神RCを訪問し、心からの感謝をお伝えしてまいりました。奨学生のときは毎月一回、京都から神戸まで例会に参加していました。それは、学業のプレッシャーからしばし解放され、心が豊かになる旅でした。米山奨学生として神戸西神RCに通った2年間は、私にとって一番幸せな時間でした。



韓国より

ジョン ホ ソン

田 鎬成 さん (韓国/2004-06/上智大学大学院/東京新都心RC)

ご無沙汰しております。毎年、気を配っていただき、感謝いたします。

ロータリーの皆様のおかげで、私は韓国の江南大学で社会福祉学部の教員として働いております。時々、仕事などで東京に伺う際には、カウンセラーご夫妻にご挨拶に伺ったりしています。チャンスがあれば一度、ソウルへご招待しようと思っておりますがなかなか実行できず、残念に思いながらも実現する日を待ち望んでおります。

中国より

チョウ キンメイ

張 欽明 さん (中国/1997-99/東京大学大学院/東京武蔵野RC)

誕生日のお祝いのメッセージをいただき、とてもうれしかったです。日本から中国に帰ってきて13年になりますが、心の中には思い出がたくさんつまっています。日本にいたときは、学業と生活を支えていただき、ありがとうございました。私は現在、北京ユナイテッドファミリー病院に移り、小児外科医主任として勤務しています。この病院は、3分の1が外国人医師で、アメリカと中国の両政府によって運営されている国際病院です。日本人の患者さんには、いつも日本語でコミュニケーションを取ることができることに誇りを感じています。

モンゴルより

チョローンバト, バトオユン さん

(モンゴル/2003-05/埼玉大学大学院/川口・鳩ヶ谷武南RC)

私は現在、モンゴルのウランバートル市において、日本民間企業100%出資の住宅地区開発プロジェクトに参加しております。日本の先進技術を導入してコンドミニウム、ホテル、病院、学校等を建設し、かつ緑豊かな町づくりをしている会社で、法務部ゼネラルマネージャーとして、日々、日本人スタッフと一緒に仕事をしています。

去年の暮れ(2012年)に会社の優秀社員に選ばれ、表彰されました。



インドネシアより

ユスラル・タヒールさんさん（インドネシア／1998-99／島根大学大学院／出雲中央RC）

10年以上経っても、あらためて感謝の気持ちでいっぱいです。現在も母国インドネシアの農業省に勤めております。3人の子どもの中で、日本で産まれた長女は、ジャカルタの国立大学の日本文化・文学部に進学しました。娘にはぜひ日本に留学して、研究を深めてほしいと願っています。

ベトナムより

ブイ・スアン・レ・アンさん（ベトナム／2012-13／目白大学／東京田無RC）

2013年3月に卒業後、ベトナムに帰国しました。無事に就職できまして、現在、日系企業でコミュニケーターとして勤務しています。5月に結婚式を挙げました。東京田無RCのロータリアンの方々が10名も出席してくださいました。大変光栄だと思っています。



スリランカより

ラクナース G. カンカナツムさん（スリランカ／1993-95／山口大学／宇部西RC）

国づくりの第一歩は、子どもの教育にあると考え、自分の幼稚園を始めて3年が経ちました。たった6人から始めた幼稚園は、今では110人にも増えました。地域では人気の園になり、国の機関の訪問者も勉強に来るレベルになったのは、僕が日本で学んだことを生かせたからだと思います。



日本より

クリシュナ・ウパダヤ・カリンゼさん

（インド／1988-89／岡山大学／岡山中央RC）

私は現在、東京のアーユルヴェーダ・スクールの校長として、インド伝承医学の一つであるアーユルヴェーダを教えています。また、健康増進についての講義を日本中で行っています。博士課程の1年間、米山記念奨学金をいただいたことは、大きな助けとなりました。ロータリーの皆さんを思い出すとき、いつも感謝でいっぱいになります。昨年（2012年）、世話クラブの岡山中央RCの例会に伺い、感謝のスピーチをしてきました。

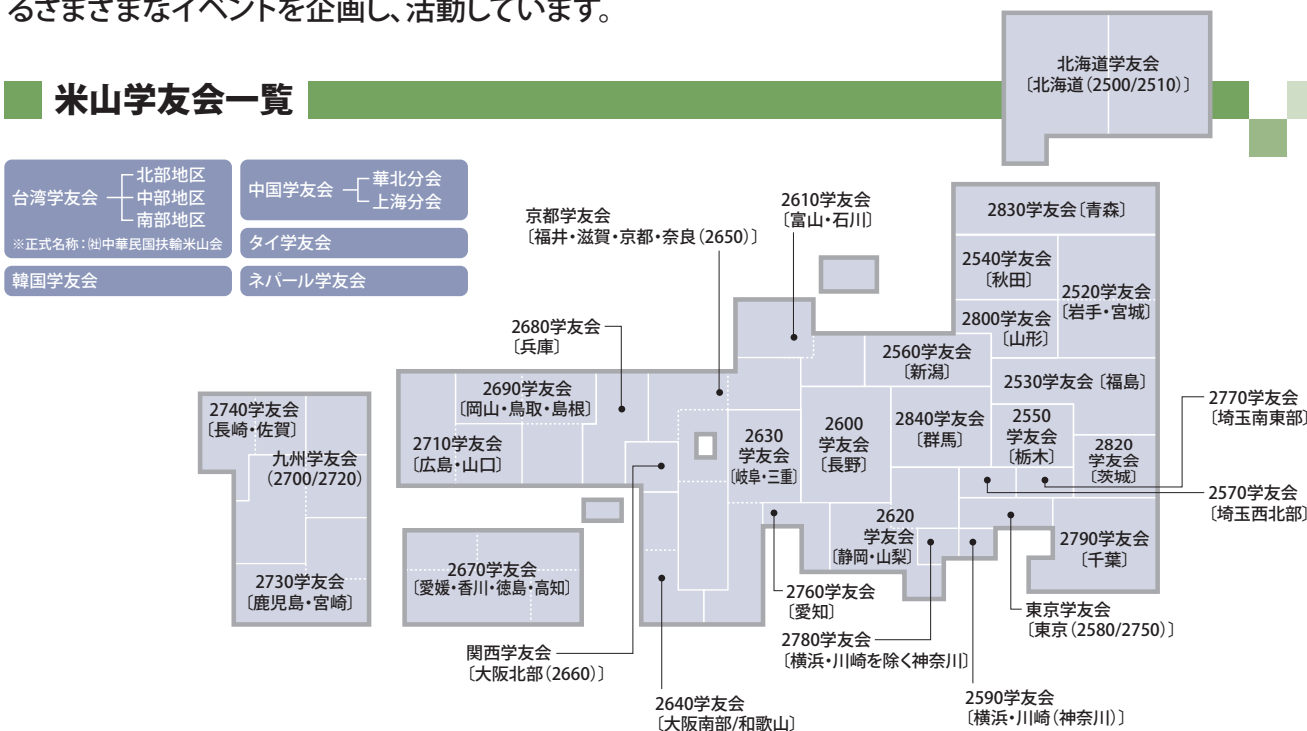


3 米山学友会の活動

米山学友会は、学友と現役奨学生によって組織される米山記念奨学生の同窓会組織です。現在、日本国内に31、海外に5（韓国・台湾・中国・タイ・ネパール）の計36の米山学友会があります。

学友会によって活動内容は異なりますが、地区米山奨学委員会やロータリアンと連携して、交流を深めるさまざまなイベントを企画し、活動しています。

米山学友会一覧



米山学友が大阪に大集合！

関西米山学友会の呼びかけに、175人が参加

2013年7月7日、大阪市内で開かれた「米山奨学生学友会（関西）」（第2660 地区）の総会および新規奨学生歓迎会には、「米山学友大集合！」の呼びかけに応えて、台湾・韓国・中国・タイの海外各学友会、国内各地の学友会からも米山学友が集まり、ロータリアンも含めて総勢 175人が大集合する盛大な会となりました。

関西学友会の新会長に就任した何玉翠さん（台湾／1987-89／奈良 R C）は、「私自身は奨学期間終了後、ずっと世話クラブに連絡できなかった。連絡方法もわからなかった。しかし、米山奨学生となったからには世話

クラブとの縁を大切にしてほしい。私たち学友会が、その橋渡しの役割を果たしたい」と抱負を述べました。その後、海外学友会からの参加メンバーも一人ひとり壇上に立ち、各学友会の近況を紹介。会場のあちこちで新しい出会いの輪が広がりました。



国内学友会

国内の米山学友会は、地区のロータリアンと協力しながら、地域密着でさまざまな活動に取り組んでいます



第2570地区(埼玉県)学友会では、毎年、秩父音頭祭りに参加。練習を重ねた見事な踊りで祭りを盛り上げています。



第2640地区(大阪府・和歌山県)学友会では、台風で大きな被害を受けた和歌山県内の被災地に駆けつけ、復旧支援活動を行いました。



第2770地区(埼玉県)学友会では、地域の介護老人保健施設を訪問。民族衣装を着て歌や踊りを披露したり、全員で日本の歌を歌ったりして、入居者と楽しいひとときを過ごしました。



第2800地区(山形県)学友会では、多文化交流コンサートを実施。日本の伝統芸能や、母国の歌・ダンスを披露して200人超の観客を楽しませました。

◀米山学友会の奉仕活動▶ 東日本大震災の被災地に心寄せて

温かい水餃子の炊き出し

第2780地区(神奈川県)と第2520地区(岩手県・宮城県)の米山学友会有志は、震災発生から1ヶ月後の2011年4月、宮城県名取市の2か所の避難所を訪れ、水餃子4,300個を振る舞ったほか、1,000足分の靴下や野菜、台車などの物資を届けました。温かい水

餃子は避難者からも好評で、「世界の国からありがとうございます。美味しくいただきました。世界の国に災害や戦争がないことを祈るだけです」などの感想が寄せられました。



メモリアルパークに桜の植樹

第2620地区(静岡県・山梨県)米山学友会は2013年2月10日、岩手県・山田町で、復興への祈りをこめた桜の植樹を行いました。東日本大震災で大きな被害を受けた山田町には、国内外ロータリークラブの支援で設置された「鎮魂と希望の鐘」があります。同学友会では、「毎年3月11日には桜の花に人々

が集い、鎮魂と安寧への祈りとともに手を結び合うシンボルとなるように」との願いを込めて、ロータリアンの協力のもと、そこに早咲きのカワヅザクラの苗木を2本植えました。



そのほか、東日本大震災の義援金として、国内外の学友会・個人から総額約760万円が寄せられました。

★台湾学友会：135人から257万6,000円 ★韓国学友会：128人から約163万円 ★中国学友会：123人から約160万円

ネパール米山学友会 2013年10月設立

最も新しい海外米山学友会です。2013年10月19日にカトマンズ市内で行われた創立総会には、ネパール出身の米山学友15人のほか、日本のロータリアンや学友会役員、在ネパール日本国大使館からの来賓などを含む約40人が集まりました。初代会長にはスレス・ダス・シュレスタさん(大阪阪南RC、現在カトマンズRC会

員)、副会長にはビジャヤ・パントさん(広島東南RC)、ほか5人の役員が選任されました。スレス会長は「米山奨学金のおかげで、ネパールには農業をはじめ各分野のリーダーとして活躍する学友が大勢います。今後は全員と連絡を取り合い、一丸となって日本とネパールの架け橋となるよう頑張りたい」と、抱負を語りました。



創立会長のスレスさん



タイ米山学友会 2012年3月設立

2012年5月にバンコクで国際ロータリー年次大会(国際大会)が開催されるのをきっかけに、学友会設立の機運が高まり、元国際ロータリー会長のビチャイ・ラタクル氏の協力の元、創立されました。バンコクの国際大会では、日本からの参加者を歓迎する「米山ナイト」を開催するとともに、米山記念奨学会の展示ブースのボランティアを学友が務め、世界各国のロータリアンに米山記念奨学事業をPRしました。

2013年3月には、バンコク郊外にある障害児のための児童養護施設を訪問し、そこで暮らす子どもたちとの夕食会を開いて交流を楽しんだほか、各メンバーから

の寄付や勤務先の企業などからの協賛を得て集めた、食材や紙おむつ、粉ミルク、冷蔵庫や電子レンジなど大量の支援物資を届けました。また、海岸清掃を行ったり、ウミガメと触れ合う「エコキャンプ」を開催し、家族ぐるみで参加するなど、設立間もないながら、学友間の親睦を深めて、奉仕活動も積極的に行っています。



バンコク国際大会で日本の歌を披露する学友たち



エコキャンプでの海岸清掃

障害児の児童ホームで夕食会を開催

中国米山学友会 2009年3月設立

北京・天津を中心とする華北分会と、上海・蘇州を中心とする上海分会が力を合わせて中国全体の学友会を設立。毎年の総会は華北分会と上海分会が交互に開催しています。親睦活動のほか、それぞれの分会では、奉仕活動にも積極的に取り組んでいます。

2012年秋に上海で開催を予定していた第4回総会は、日中関係の急激な悪化から一旦延期を余儀なくされましたが、2012・2013年度合同総会として2013年6月15日、上海市内で開催され、学友・日本のロータリアン55人が出席しました。“We Are Family”というテーマ

にふさわしく、上海近郊や北京・天津だけでなく、南京や広州、遠くはアメリカのボストンからも学友が集まり、和気あいあいと活気ある総会となりました。



韓国米山学友会 1989年6月設立

初代会長は、米山学友として初めてガバナーになった林隆義さん(1977-78／京都大学大学院／京都西南RC)。会員のほとんどが大学の教授、准教授など、教育・研究職に従事しており、ロータリアンになる学友も増えています。2013年度の総会で、第5代会長に選ばれた全炳台さん(1980-83／仙台北RC)も建国大学の教授で、現在ニューセソウルRCの会員です。2014年3月から新体制でスタート。活動のさらなる活性化が期待されます。



台湾米山学友会 1983年1月設立

正式名称: 社団法人 中華民國扶輪米山会

国内・海外を含めて米山学友会の中では最も歴史が古く、また、最も活発に活動している学友会です。ロータリアンになっている学友も多く、日台親善会議やインターアクト研修旅行など、ロータリーの日台交流でも学友会会員が大活躍しています。

2009年から、台湾の大学・大学院で学ぶ日本の若者へ奨学金を支給して支援しています。当初3年間は毎年1人でしたが、2011年からは2人を採用して、一人

あたり毎月25,000台湾ドル(約8万円)を1年間、支給しています。米山奨学金のカウンセラー制度になって、学友の一人が専任カウンセラーも務めて、台湾での留学生生活を物心両面で支えています。そのほか、台湾で行われる日本留学フェアにブース出展し、日本留学や奨学金の情報を提供するなど、日台の親善交流と人材育成のために、さまざまな活動をしています。



台湾で学ぶ日本人留学生を支援

世話クラブ・カウンセラー制度があればこそ

ロータリーから教わったこと

米山学友 ^{リン} 林 ^{カ ケイ} 佳慧
(台湾)

私は2001年4月から1年間、ロータリー米山記念奨学生として第2520地区(岩手県・宮城県)の利府ロータリークラブ(RC)にお世話になりました。宮城教育大学修士課程で障害児教育を専攻し、台湾へ帰国後、小学校の教育実習、特別支援学級などの教員を経て、現在は台北市西区特殊教育資源センターに勤めています。障害児の教育診断、教師・親の相談、障害児の教材開発および教具の管理などが仕事の中心です。

■「四つのテスト」を心に照らして

奨学生になって例会に参加し、初めてロータリーの「四つのテスト」(*)を知りました。私にとって、この「四つのテスト」は非常に親しみを覚えるものでした。なぜなら、『論語』^{がくじ}学而第一にも似た文章があるからです。それは、「私は毎日三つのことを反省しています。他人の役に立つために一生懸命に頑張ったかどうか。友達と付き合ったとき、誠真をもっていただろうか。先生に学んだ知識はきちんと復習したかどうか」というものです。ロータリーの「四つのテスト」は、この論語の言葉と同じように、私に深い影響を与えました。

留学中はもちろん、台湾に帰った後も、この精神は私の心の中に生き続けています。私は毎日、就寝前に一日を反省し、自分にこう問いかけます。

「今日一日は真実かどうか。子どもへ公平に接したか。子どもへの愛情を深めたのか。子どものためになったかどうか」――。

これらのテストを通して自分の心の中を照らし、もっと輝いた明日の自分へ向かっていきたいと思うのです。

■歯車の一つとして

ロータリーの徽章にもたくさんのことを教わりました。歯車は、人の社会を表していると考えてもよいでしょう。私たちは歯車を支える歯です。歯は小さいけれども、歯車を回転させるのに欠かせないものです。歯をなくしたら、機械は動くことができません。私たちの社会も同様です。人は分かち合いの心で、一つの輪になって、ほかの人々を助けながら、この世界をもっと良くしていくこと、これがロータリーの理念だと思います。

私は障害児教育を学んでいます。この理念は障害児教育の仕事をしている私にとって非常に役に立ちます。私はいつも頭の中に、こんな歯車を描いています。

障害児を歯車の中心において、障害児の教師、親、医者、そして心理療法士、理学療法士などの専門家が歯車の歯になります。障害児を支援するために、先生一人だけでは足りないのです。親一人だけでは足りないのです。みんなの力が必要です。私はこれからも歯車の一つの歯として、歯車全体を回転させるために、子どもたちのために、頑張りたいです。

■出会いに感謝

この10年を振り返って、たくさんの出会いに心から感謝しています。

クリーニング屋さんのおばさんに感謝します。日本に来たばかりのころ親切にいただき、外国で独りぼちの私は暖かい太陽に照らされたように感じました。

宮城教育大学の渡辺徹先生に感謝します。すばらしい教授から指導を受けることができ、とても幸せでした。

台湾の職場で出会った同僚たちに感謝します。彼らからいろいろなことを学び、勉強になりました。

学校の子どもにも感謝しています。子どもたちのおかげで、私はこんなに強くなれます。

利府RCの皆さん、カウンセラーの郷右近さんに感謝します。日本にいたとき、本当にお世話になりました。

最後に、日本のロータリアンの皆さんに心から感謝します。皆さんのおかげで、今、私はここにいます。



※ ロータリーの倫理指針 「四つのテスト」

言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

留学生と触れ合う楽しみ

豊中ロータリークラブ 畑田 耕一

豊中ロータリークラブ(RC)は、大阪大学豊中キャンパスに近いので、留学生、特にアジア諸国からの学生と触れ合う機会が多く、言葉や習慣の違う若者との語らいは、お互いにいろいろと得るところがあります。

政治的な問題があるために、来日前は心配していた中国からの留学生が、「日本に来て数日で心配は吹き飛びました。大学の中だけではなく、町の人たちも皆親切で、温かく接してくれたからです」という言葉には、国家間のトラブルがあったとしても、両国の人たちが仲良くしている限り平和は保たれるのだということを強く意識したと同時に、これが国際奉仕の根本であるという思いを強めました。



私が以前カウンセラーを務めた、米山奨学生の袁厚群さんから最近、便りが届きました。

彼女は今、豊中RCの特別支援奨学生だった鮑光明君と結婚し、ともに中国の江西農業大学の講師として教育、研究に当たっています。メールはいつも英語ですが、以下は彼女が一生懸命に書いてくれた日本語です。

「昨年11月4日に長女が生まれました。乳名(幼名)は筱筱、名前は鮑思源です。中国語で“飲水思源”という成語があります。意味は、水を飲むときには水はどこから来たかという問題を覚えていてください、ということです。例えば、私たちが今幸せな生活をしている時に、なぜ幸せな生活ができるのかと考えると、今まで助けてくれた人たちがいっぱいいます。先生や友人などなど。助けてくれた人に感謝の気持ちを持って、ほかの人たちをできるだけ手伝うという意味です。

サンキュー 畑田先生」

彼女のカウンセラーを務められて、本当に良かったと思います。

●『ロータリーの友』2013年9月号より一部省略して転載

米山奨学生の結婚式に出席して

宇部西ロータリークラブ 有田 幸一

今年二月、宇部西ロータリークラブ宛てにうれしい便りが来ました。昨年三月で帰国した中国出身の米山奨学生、庄麗さんからの結婚式招待状でした。

庄麗さんは昨年3月までの1年間、米山奨学生として当クラブでお世話し、卒業後は韓国の大手建設会社に就職しました。山口大学博士課程理学科環境共生系を専攻していた彼女は非常に優秀で、中国語のほかに英語、日本語を話し、当クラブの活動には例会をはじめ、餅つき、餃子づくりなどにも積極的に参加する活発な奨学生でした。

結婚式には、彼女のカウンセラーだった井上裕二夫妻と当時クラブ会長だった私と家内の4人で出席することになりました。

新郎は同じ山口大学に留学していた韓国の男性で、結婚式はソウルで行われました。約200人の出席者のうち日本人は14人。韓国語、中国語、日本語の飛び交う中での感動的な結婚式でした。その後、韓国の伝統衣装に着替えて「ペベク」という韓国式の結婚の儀式が行われました。

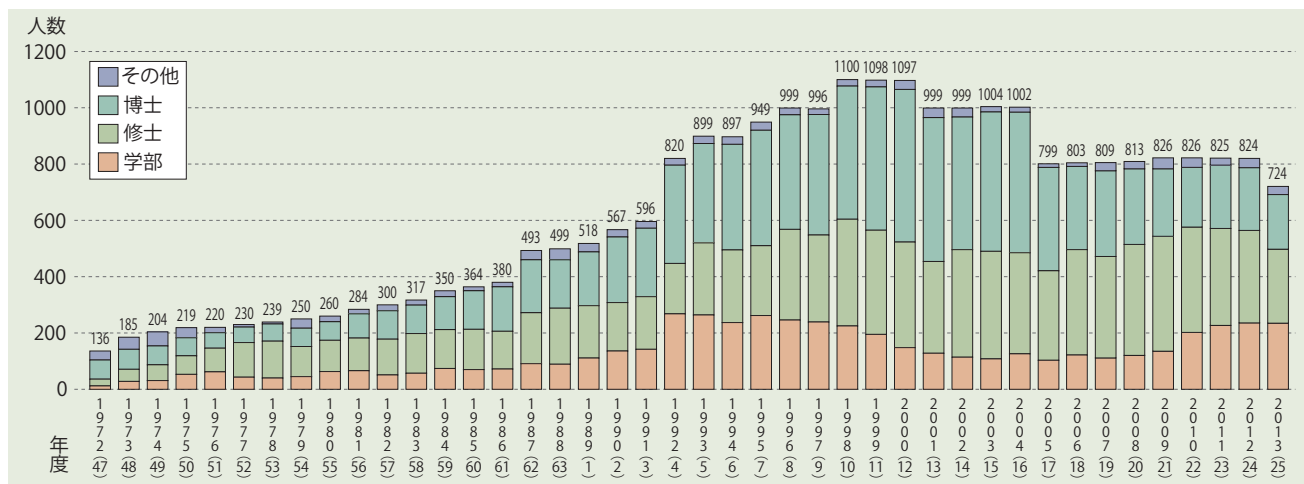
米山奨学生をお世話したおかげで、貴重な体験をすることができました。政治的には難しい時期ですが、庄麗さん夫婦の幸福、米山奨学生の国際人としての活躍を念じ、再会を約束して帰国しました。

●『ロータリーの友』2013年10月号より転載

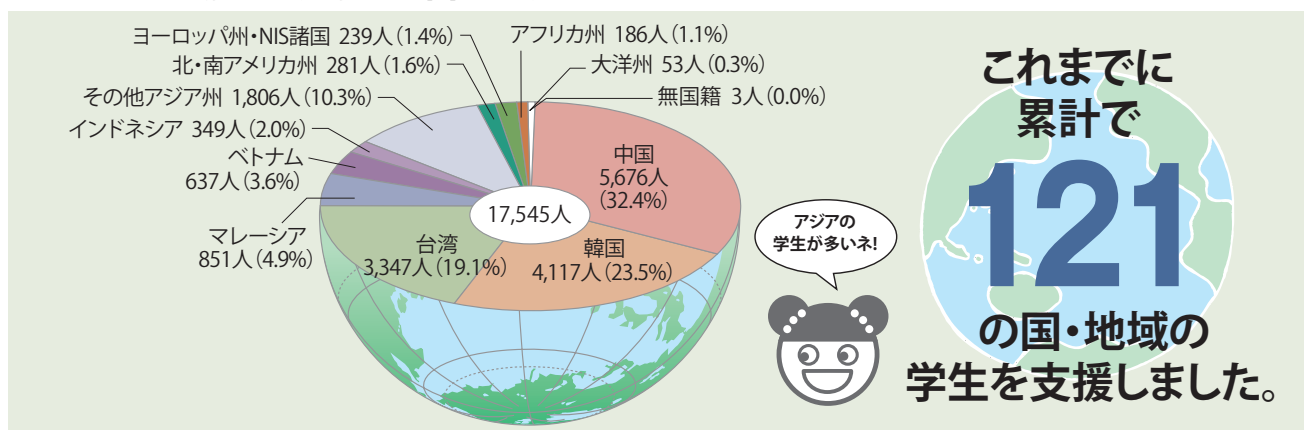


データで見る米山学友

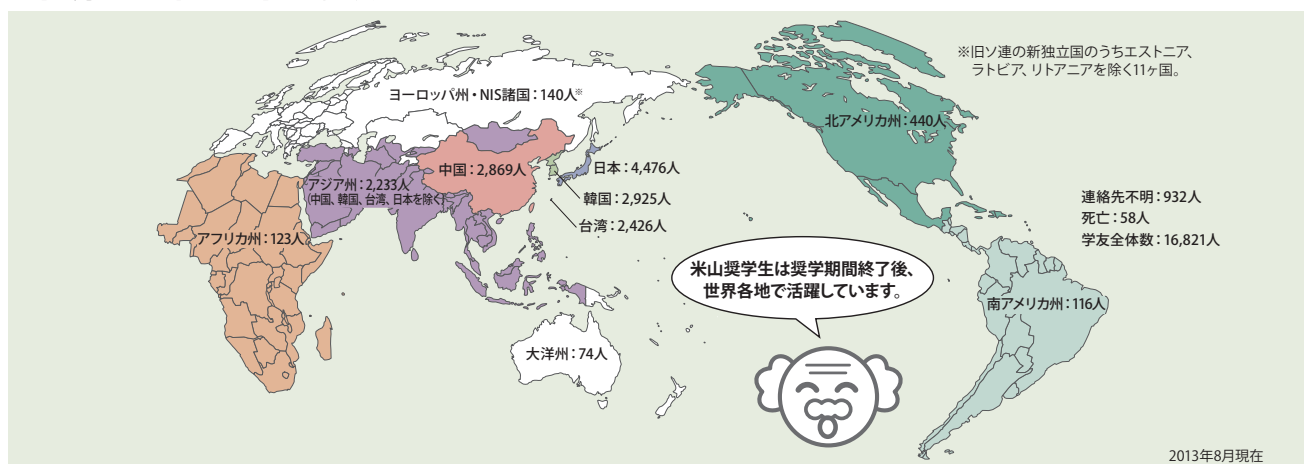
1. 米山奨学生数の推移

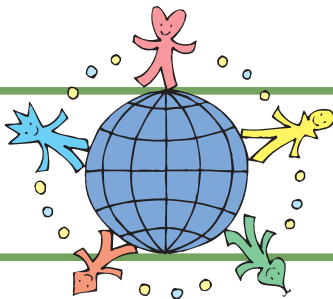


2. これまでに支援した奨学生の国・地域



3. 世界で活躍する米山学友





Q1 出身校BEST10は？

1	東京大学	885人
2	筑波大学	631人
3	大阪大学	504人
4	東北大学	367人
5	信州大学	349人
6	名古屋大学／神戸大学	各336人
8	九州大学	325人
9	京都大学	324人
10	東京工業大学	314人

※複数回奨学金を受けた者で異なる学校に所属した者は、それぞれの学校でカウント

Q2 博士号取得者数は？(申請ベース)

A 3,386人 (国外取得者や渡日前取得者を含む)

【博士号取得者の国・地域ランキング】

1	韓国	1,265人
2	中国	1,185人
3	台湾	609人
4	バングラデシュ	76人
5	ベトナム	30人

【博士号の種類】

1	工学	1,083件
2	医歯薬等	748件
3	農学	476件
4	社会科学	385件
5	理学	329件

(米山奨学会独自の分類です)

Q3 学友の現在の職業は？

1	教育	3,912人
2	企業経営・勤務	3,044人
3	研究所	440人
4	医療	339人
5	自営	168人
6	公務員・代議士	144人
7	主婦	71人
8	通訳・翻訳	47人

教育関連の仕事についている人が多いんだね。



(米山奨学会独自の分類です)

Q4 ロータリアンになった学友の国・地域

A 148人 (米山奨学会把握分)

1	台湾	72人
2	韓国	27人
3	中国	24人
4	ネパール／マレーシア	各4人
5	スリランカ	3人
6	インド／インドネシア／バングラデシュ／モンゴル	各2人

米山学友を中心に発足した ロータリークラブ (RC)

- 台北東海RC (第3480地区)
加盟承認：1995年1月31日 ※公用語は日本語
- 台中文心RC (第3460地区)
加盟承認：2007年3月16日 ※公用語は中国語
- 東京米山友愛RC(第2750地区)
加盟承認：2010年3月16日
- 東京米山ロータリーEクラブ2750(第2750地区)
加盟承認：2012年6月21日 ※インターネット上で例会を行う

Facebookで最新ニュースを配信しています
 ～「いいね!」をクリックして応援してください～



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
 ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

Tel:03-3434-8681 Fax:03-3578-8281

ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

ロータリー米山記念奨学会の環境への取り組み



この印刷は環境に配慮した「水なし印刷」と「ベジタブルインキ」を採用しています。
 また、工場の消費電力量の一部はCO₂を排出しないグリーン電力を使用しています。